

夏秋キュウリの露地遅まき栽培における品種比較

福島県農業総合センター 作物園芸部野菜科

1 部門名

野菜 - キュウリ - 品種比較

2 担当者

齊藤誠一・伊東かおる・小林智之

3 要旨

キュウリは福島県を代表する品目であるが、栽培面積が減少傾向にあり、夏秋キュウリでは9月以降の低温期の出荷量が少なくなるため、低温期の出荷量の増加が求められている。そこで、9月以降の収量を確保し、高品質、安定生産技術の確立を図るため、夏秋キュウリの露地遅まき栽培を行い、キュウリ6品種について比較調査を行った。

(1)6品種の株当たりの総出荷果実数は201～220本で、その中で光琳が最も多かった(図1)。

(2)6品種のA級率は57～62%で、その中で豊美1号が最も高かった(図2)。

(3)遅まきキュウリに求められる9～10月の出荷量は、光琳が株当たり106本で最も多かった(図3)。9～10月のA級率は光琳が51%で最も高かった。

以上のことから総合的に判断すると、光琳が最も有望で、次いで豊美1号が有望な品種と考えられた。

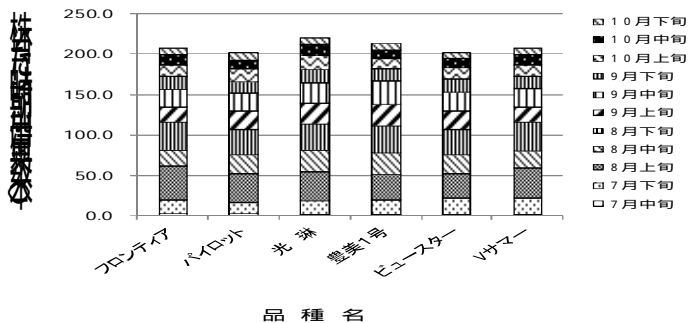


図1 キュウリの時期別収穫果数

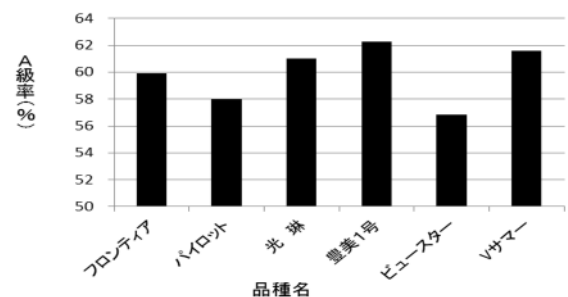


図2 キュウリのA級率

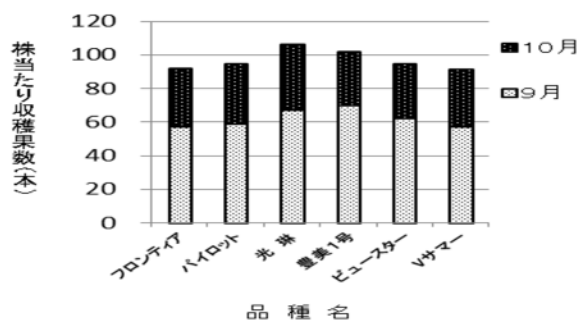


図3 キュウリの9 - 10月の収穫果数

表1 耕種概要

供試品種	穂木「供試6品種」台木「GT」
播種	平成24年6月1日(穂木)、2日(台木)
接ぎ木	平成24年6月12日
定植	平成24年6月27日
栽植密度	ベット幅210cm×通路幅100cm×株間75cm(10a換算 860本/10a)
収穫期間	平成24年7月18日～10月31日

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成24年度
- (2) 研究課題名 夏秋キュウリの遅まき栽培技術の確立(品種比較試験)
- (3) 参考となる成果の区分 (指導参考)

5 主な参考文献・資料

- (1) 平成9年度～10年度福島県農業総合センター試験成績概要